

『絵本を介して、親子のふれあいを』

中央子育て支援センター長

内藤 春美

絵本の読み聞かせは、親と子のコミュニケーションや触れ合い、子どもの創造性の発達に大切な役割を持っています。

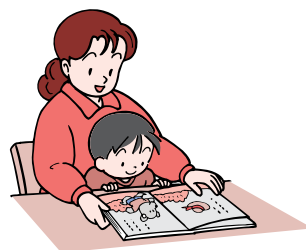
生後6カ月ころの赤ちゃんは、はつきりとした色使いの絵本を好み、1歳前後で、自分のまわりにあるいろいろなものに興味を持ち、動物や果物などの絵が描かれているものを喜び、ページをめくると絵が変わる面白さを理解できるようになります。

自分の知っているものを指差したり、親が『ワンワンはかわいいね』と教えると『ワンワン』と発語したりするようになります。

しかし、このころはページをめくってもお話が進んでいることが理解できないので、本を読んでいるときに、自分勝手にページをめくってしまうことがあります。

また、2歳を過ぎると、絵本の中の言葉を理解できるようになり、『ひっぱれ、ひっぱれ』『よいしょ、よいしょ』など、リズムカルな言葉の繰り返しをまねるようになります。

子育て伝言板



3歳を過ぎるころには、物語の内容を大體理解することができるようになり、何回も読み聞かせた本であれば、次のページがどんな展開になるかを記憶していて『オオカミがでてくるよ』など、お話の先を言うこともあります。

このように、子どもの発達とともに絵本の楽しみ方は変わってきますので、子どもの年齢に適した絵本を選んで読み聞かせるようにしましょう。

絵本の読み聞かせには、特に決まりはありません。子どもは本を読み聞かせているうちに、お気に入りの絵本を見つけ出しますので、子どもが求めた時には、何度も読んであげてください。

ひざの上に抱っこしながら、あるいは枕元で親子の会話を楽しみながら、たくさん絵本を読んであげましょう。

問い合わせ 子育てグループ

(☎ 85 5 6 3 4)

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別美術協会

『登別美術協会』は、昭和53年8月に全道展移動展が初めて登別市で開催されたことをきっかけに、市内の美術愛好者が中心となり、同年11月に結成されました。

現在、会員は40歳代から80歳代までの45人。個人の創作活動の傍ら、公募展や小品新作展、デッサン会などの活動を行っています。

「絵は、自分が見て感動したものを画面に写し出しますが、感動をもっと豊かに表現できるようにになりたいですね。絵を描くことで、人生を有意義に過ごすことができ、多くの皆さんに絵を描く楽しさを経験してほしいですね」と話すのは、会長の長田清さん。

「今年8月、市内のテーマパークで『夏休み親子絵画教室』を初めて開催しました。参加した多くの親子連れからも好評で、これが



色を重ねて、自分の思い通りの色を表現できたらうれしい



公募展に出品された作品の審査

「私も市民の皆さんに喜ばれる催しを行っていきたいですね」と長田さんは、今後の活動の抱負を話してくれました。

協会では、会員同士の親ほくを兼ねて、美術館などへの絵画鑑賞バスツアーを行い、全国・全道レベルの作品を鑑賞し、技術の向上を図っています。

昨年入会した武田秀章さんは、「約10年前にバスツアーを始め、昨年の公募展で奨励賞を受賞したことをきっかけに入会しました。

風景や花の絵を描くことが好きで、色を重ねて、自分の思い通りの色を表現できたらうれしいです。今後は、動物を描いてみたいですね」と笑顔で話してくれました。

入会についてのお問い合わせは、長田さん(☎859067)までどうぞ。